



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「メートル法」

「度量衡」という言葉がある。それぞれ度は長さを、量はかさ、衡は重さを表し、物の計測をする時の単位である。日本は古来、尺や貫を基本にした制度を用いてきた。一尺の長さは「手を広げた状態の親指の先から中指の先まで」というのが本来の定義であるが、尺は権力者たちの都合で伸びてゆく。たとえば布などを租税として取り立てるときに、尺の長さを伸ばしておけば、より多く納めさせることができたからだ。その結果、明治の始まるころには同じ「尺」でも長さの異なる物差しがいくつも存在するようになっていた。欧米に負けない近代国家をつくらうという時に、これではあまりにも足元が危うかった。

メートル法が生まれたのはフランスだった。その頃のフランス国内ではいくつもの単位体系が混在していて、国が変われば単位はさらにバラバラであった。そこで世界共通の単位創設という発想から、北極点から赤道の子午線までの長さを算出し、その千万分の一の長さを一メートルと呼ぶことにしたのである。

やがて西洋技術や学問を通じてメートルやグラムという単位に日本人は触れる。他方、フランスに協力しなかった英米は、ヤードやポンドを使用し続けていた。だから日本でも、英米から取り入れた技術などはヤード・ポンド法がベースとなっていた。一八七五年にパリで十七カ国の代表によって「メートル条約」が締結され、やがて日本も一八八四年に加盟した。しかし、外国のものを基準にして日本の尺度を決めるのはおかしいという考えもあったが、紆余曲折を経て、一八九一年にメートル法が公布された。だが、英米との関係が深まるにつれてヤード・ポンド法まで公認されてゆく。しかも同じヤード・ポンド法でも英米では異なる。メートル法運動の追い風は一九一四年の第一次世界大戦である。この戦争は日本に空前の好況をもたらした。重化学工業が一気に進展したのである。だが製品を海外へ売り込む時に障害になったのが単位の不統一であった。そこで日本の度量衡はメートル法を基本とすることにしたのである。しかもメートル法以外の使用を禁じたのであった。『奇蹟の学校』より抜粋)

正典という言葉がある。まっすぐという原意で、そこから人生の規範という意味になる。第二テモテ書には「聖書は：人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である」(三・16)とあるが、これは聖書が正典であるという意味になる。神はこの混沌とした世に、迷わずに生きられる正典というルールを敷かれたのである。これによって私たちは救いの道を迷わずに歩めるのである。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

